

第5番 地蔵寺

●徳島県板野郡板野町羅漢林東5
☎088-672-4111
●宿坊／なし



第6番 安楽寺

●徳島県板野郡上板町引野寺／西北8
☎088-694-2046
●宿坊／あり(要予約)



沿線の見どころ



上板町 技の館

上板町の伝統工芸藍染体験ができる施設。天然灰汁発酵建ての正阿波藍でありながら、500円からという手軽さもうれしい。体験後は「からだに優しいレストラン 桜並木」で、旬の食材で季節感を楽しめる料理を味わおう。阿波和三盆糖アイスクリームも好評。

所 徳島県板野郡上板町泉谷原32-4
6番安楽寺から北東へ2.1km
☎ 088-637-6555
🕒 9:00～17:00(藍染体験受付は15:30まで)
休 月曜



境内の見どころ



大銀杏

境内の中心で寺を見守り続けているのは、「たらちね銀杏」とも呼ばれている。樹齢800年を超える母なる大木。幹が太く四方八方に枝を伸ばし、秋になると黄金の葉が境内を染める。また、奥の院と本堂を結ぶ本堂裏の参道には、毎年春に見事な梅の花が咲く。折々の風情を楽しみつつお参りしたい。



境内の見どころ



奥の院 五百羅漢堂

安永4年(1775)、実間、実名という兄弟の僧によって創建された。しかし大正4年(1915)に参拝者の火の不始末で火事となり、羅漢の大部分が焼失。現在あるものは大正から昭和にかけて作られたもの。約200体の羅漢は、コの字型に並ぶ弥勒堂、釈迦堂、大師堂に数々の仏像とともに収められている。



黄金のたらちね銀杏が境内を見守る

第5番

無尽山 地蔵寺

むじんざん しょうごんいん じぞうじ

様々な表情の羅漢さんに出会える

歴史・全体像

弘仁12年(822)、嵯峨天皇の勅願によって弘法大師が開創。大師が刻んだ本尊の勝軍地蔵菩薩は、高さ一寸八分(5cm余)で、甲冑を身につけ馬にまたがるという勇ましい姿。その後、浄園上人が一尺七寸(約51cm)の延命地蔵を彫り、その胎内に弘法大師の勝軍地蔵菩薩を納めたという。寺は源氏をはじめ多くの武将、阿波藩主蜂須賀家などに信仰され、広大な土地を有するようになった。

しかし、長宗我部氏の攻撃ですべて焼失。現在の建物はその後建てられたものだが、今でも1万2000坪の広大な敷地をもち、大寺の面影を残している。

境内

駐車場に車を止め、横の仁王門をくぐると、大きな銀杏の木に目を奪われる。

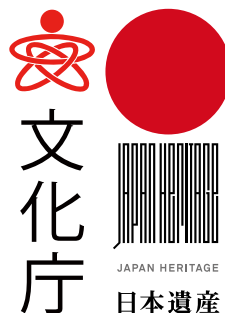
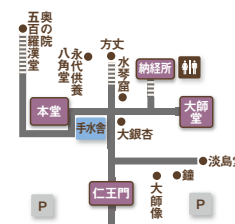
この寺はおよそ1200年の昔より法灯が連続として受け継がれてきた真言宗の古刹であり、その歴史を物語るように、境内には本堂、大師堂、不動堂、永代供養八角堂、方丈、淡島堂が厳かな雰囲気の中に佇んでいる。

また、本堂脇の参道を通り石段を上ったところには、奥の院となる五百羅漢堂がある。ここへは境内を歩いて行くことができるが、車で直接乗り入れることも可能だ。境内にある水琴窟が音色を奏で、ひとときの清涼感を与えてくれる。

御詠歌／六道の能化の地蔵大菩薩導きたまえこの世後の世
本尊・勝軍地蔵菩薩
真言／おん かかかびさんまい そわか
宗派／真言宗御室派
開基／弘法大師



大師が刻んだ勝軍地蔵菩薩が祀られる本堂



日本遺産「四国遍路」～回遊型巡礼路と独自の巡礼文化～

弘法大師空海ゆかりの札所を巡る四国遍路は、阿波・土佐・伊予・讃岐の四国を全周する全長1400キロにも及ぶ我が国を代表する壮大な回遊型巡礼路であり、札所への巡礼が1200年を超えて継承され、今なお人々により継続的に行われている。四国の険しい山道や長い石段、のどかな田園地帯、波静かな海辺や最果ての岬を「お遍路さん」が行き交う風景は、四国路の風物詩となっている。キリスト教やイスラム教などに見られる「往復型」の聖地巡礼とは異なり、国籍や宗教・宗派を超えて誰もがお遍路さんとなり、地域住民の温かい「お接待」を受けながら、供養や修行のため、救いや癒しなどを求めて弘法大師の足跡を辿る四国遍路は、自分と向き合う「心の旅」であり、世界でも類を見ない巡礼文化である。

文化庁日本遺産魅力発信推進事業／発行：四国遍路日本遺産協議会／制作：(株)エス・ピー・シー

ここをつなげて四国はひとつ 四国遍路を世界遺産に

2017年3月作成

歩き遍路のための「四国遍路」巡礼マップ

第5番 地蔵寺



第6番 安楽寺



 5.3km ※赤い点線は遍路道の一例です

